



今月新しく入りました。

※9月の新刊は、1日（金）からの貸出となります。

一般の本

- ・あなたならどうする（作＝井上荒野）
- ・大切なことに気づかせてくれる33の物語と90の名言（作＝西沢泰生）
- ・福袋（作＝朝井まかて）

子どもの本

- ・UMA 水族館（作＝山田玲司）
- ・ネコヅメのよる（作＝町田尚子）
- ・もりのとしょかん（作＝ふくざわ ゆみこ）

中でもこの本がオススメです。



黒い波紋

作＝曾根圭介

元刑事の加瀬将造は、孤独死した父親宛てに何者かから毎月30万円の現金が届いていることを知る。さらにアパートを片付けると天井裏から古いVHSのビデオテープが。中身を確認すると、そこに映っていたのは……。



かもめ たくはいびん

作＝いいひろし

かもめさんたちがやっている宅配便やさんはいつも大忙し。長続きする配達員を探してんちようさんの前に現れたのは……!?



塩の街
作＝有川浩



桃太郎が語る桃太郎
文・絵＝岡村優太

「**図書館戦争**」3匹のおつさんなど有名な有川浩さんのデビュー作です。塩が世界を埋め尽くす塩害により崩壊寸前の東京で、主人公の秋葉と真奈は様々な人との出会いと別れを体験していきます。あるとき「世界をか救ってみたいくな

い？」と話をもちかけられ……。塩害にならなければ出会わなかったはずの秋葉と真奈の恋は世界を救えるのでしょうか？怖いようで優しい秋葉と頑固な真奈の恋愛模様は、じれったくもありませんが、心が温かくなります。

この本は、今までの「桃太郎」とは違う、桃太郎本人の視点から語られている「桃太郎」です。イラストも工夫されており、すべて桃太郎の目から見た景色が描かれています。誰もが知っている昔話の

「桃太郎」。しかし、桃太郎の気持ちになって物語を読んだ人は少ないのではないのでしょうか。桃太郎の心の中を知ること、お話の中の英雄だった桃太郎がぐつと近い存在へと変化します。

広がる本だな

本は知識を深めるだけでなく、人と人とのつながりを広げてくれます。新たな本との出会いは新たな人との出会いの始まり。広がる本だなでは、新たな本との出会いの場として、毎月おすすめの本を2冊紹介いたします。今月の紹介者は飯干愛理さん（司書）です。

Health

ADVICE

Dr. 楠田の

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです



ピロリ菌が胃がんの原因となっていると聞きました。本当ですか？（40歳・男性）

胃がんは、がんの部位別死因第3位の疾患です（平成27年・男女合計データ）。最近では、ピロリ菌との関連が指摘されています。

ピロリ菌とは

強い酸性の胃液の中でも、生きることができる菌です。ピロリ菌の正式な名前は「ヘリコバクター・ピロリ」です。「ヘリコ」は「らせん形」のこと、ヘリコプターの「ヘリコ」と同様の意味で、「バクター」は「バクテリア（細菌）」のこと、で、「ピロリ」とは、胃の出口の方の「幽門（ピロリ菌の多くが発見される場所）」のことです。つまり、ピロリ菌の名前は「幽門にいるらせん形の細菌」という意味です。

ピロリ菌で胃がんが発生

ピロリ菌が胃の粘膜に感染すると、持続する胃炎を生じて胃の粘膜が薄くなり「萎縮性胃炎」という状態になります。萎縮性胃炎では、胃がんが生じやすくなります。

10年間で胃がんになった人の割合は、ピロリ菌に感染していない人では0パーセント、ピロリ菌に感染している人では2.9パーセントであったと報告されています。また、ピロリ菌を除菌（薬をのんでピロリ菌を退治する治療）することは、胃がんの発生率を低下させ胃がんの予防になります。

感染予防で胃がんを減らす

ピロリ菌は主に口から感染

します。ピロリ菌自身は感染力の弱い細菌であり、胃酸濃度が低くピロリ菌が生息できる乳幼児期に感染するとされてい、大人での感染は起こらないと考えられています。衛生環境が整った現代では、ピロリ菌に感染している大人から小さい子どもへの食べ物の口移しなどによる家庭内感染が疑われていますので注意が必要です。

また、将来的な胃がん予防として、中・高生へのピロリ菌感染検診、感染陽性者への除菌治療に取り組んでいる自治体もあります。

検査・治療の方法

ピロリ菌の検査は、内視鏡を用いて胃の観察をするとも、に胃粘膜を採取して行う3種

類の方法と内視鏡を用いない採血法・呼気法・検便法の計6種類の方法がありますので、状況に応じて検査法を選択できます。ピロリ菌の除菌治療は、胃酸を抑える薬と2種類の抗菌薬を7日間内服します。初回治療で5〜10パーセントの人が除菌不成功となりますが、他の抗菌薬を用いた2回目の治療でほとんどの人が除菌可能です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍・内視鏡でヘリコバクター・ピロリ胃炎と診断された人は、健康保険を使用して除菌治療を受けることができます。ピロリ菌感染が心配な人は、お近くの医療機関でご相談ください。



「アドバイザー」

楠田慎一さん・くすだしんいち・平成8年産業医科大学医学部卒業、産業医科大学病院等での勤務を経て平成18年より門司労災病院（現九州労災病院門司メディカルセンター）勤務。平成28年4月よりくらで病院外科勤務。

日本人の胃がんのほとんどはピロリ菌感染が原因とみられています。ピロリ菌を除菌することが、胃がんのリスクを軽減するだけでなく、次世代の胃がん予防に繋がると考えられています。